

症例検討会

平成25年11月 羽島店

(症例) 30代男性 皮膚科受診
ハイシー顆粒 25% 3g
1日3回 毎食後
ベトネベートNクリーム 5g
ヒルドイドソフト軟膏 25g

慢性色素性紫斑

中年以降にみられる下肢の点状出血、毛細血管拡張、褐色調の色素沈着で慢性の経過をたどります。やや男性に多くみられます。臨床症状によりシャンバーグ病、マヨッキー(血管拡張性環状紫斑)、紫斑性色素性苔癬様皮膚炎の3型に分けられます。真の原因は不明ですが、微小循環障害と血管壁の弱さが関係するようです。時に高血圧や静脈瘤を合併し、これらは静脈圧の亢進が要因と推定されます。色素とは、この場合メラニンだけでなく主にヘモジデリン※です。紫斑とは、血液(主に赤血球)が血管から漏れた状態です。ただし、この場合は、皮膚の表面近くの微小血管からの漏れで、内臓疾患は通常伴いません。(※ヘモジデリン ヘモグロビン由来の鉄を含む黄褐色あるいは褐色の顆粒状あるいは結晶様の色素)

(シャンバーグ病)

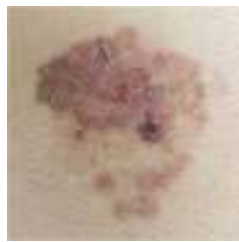
比較的中年以降の男性の足(特に下肢)に出来やすい赤トウガラシ色の点状の紫斑で時にかゆみがあることはありますが、通常かゆみを伴いません。独特の赤茶褐色の色素沈着があり、経過は長期に及びます。

(マヨッキー)

比較的中年以降の女性に多く出来ますが、男性の患者さんもいます。環状の紫斑が主体です。通常、自覚症状はありません。

(紫斑性色素性苔癬様皮膚炎)

中年以降の成人に多く下肢にできます。経過は長く褐色の色素沈着があり、病巣の血管が比較的深く炎症も強く、かゆみをとまいません。



治療

原因不明で慢性経過をとることが多いため、治療方法是对症療法になります。ステロイド外用薬が有効なことが多く、この他に内服(ビタミンC、アドナ、トランサミンなど)もありますが、効果は一定ではありません。また、掻痒に対しては抗ヒスタミン薬を投与します。静脈還流障害(うっ滞性皮膚炎など)を併発している場合は、長時間の立ち仕事を避け、弾性ストッキングを着用します。また、慢性扁桃炎やう歯などがあればそれに対する治療を行います。衣類による接触皮膚炎が疑われる場合は、その衣類の着用を禁止します。慢性でかつ進行性で一進一退をくりかえし難治性ですが、自然軽快もありえます。

(症例) 60代女性 バルーン留置 泌尿器科受診

シナール配合顆粒 3g

1日3回毎食後

膀胱炎から高熱が出て、入院をすることが何度もあったため、先生が膀胱炎になり

にくい薬をだしておくとおわれた。

(適応外処方)

ビタミンCが弱酸性物質であることから、1日0.5~3.0gの投与で尿を酸性化して、

慢性反復性の尿路感染に有効との報告もあるが、これも一般化していない。